

2年B組 技術・家庭科（家庭分野） 題材設計・学習指導案

指導者 土手 佳代

1 日時（場所） 令和5年10月30日（月） 13:50～14:40（2年B組教室）

2 教科領域別研究テーマ

生活の中の課題を見付け、解決する力の育成

ー習得した知識や技能を生活に生かす、題材設定の工夫と評価の改善ー

3 研究テーマ設定の理由

自分及び社会の状況を把握し、よりよい未来の実現に向けてよりよい方法を選択したり創り出したりできる力を身に付けていくことは、VUCAの時代に求められている力である。家庭分野においても、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指している。

「生活の営みに係る見方・考え方」とは、家族や家庭生活、衣食住、消費生活や環境などに係る生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫することである。

家庭の仕事は商品化され、手軽に手に入れることが可能になり、実践の必要性を感じにくくなっている。習得した知識や技能を生活実践につなげることで、実感を持って学ぶことができる。さらに、その経験や気づきが、自身の生活に目を向ける「きっかけ」となり、自分にできることを増やしたり、生活への課題意識を持ったりできるようになると考え、本テーマを設定した。今年度は、実践的・体験的な課題を設定し、メタ認知を更に高める機会を増やしていきたい。

4 題材設計（題材名：安全で快適な住まい）

(1) 題材目標

- 家族の生活と住空間との関わりや、住居の基本的な機能、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。 「知識及び技能」
- 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決することができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 「学びに向かう力、人間力等」

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し(①)、解決策を構想し(②)、実践を評価・改善し(③)、考察したことを論理的に表現する(④)などして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

(3) 指導計画（全 10 時間）

次	時 数	ねらい・学習活動	重 点	記 録	評価規準（評価方法）
1	2	・イメージマップを作成する活動を通して、住まいの基本的な機能や家族と住空間の関わり、和式と洋式の住空間の特徴を理解する。	知		・住まいの基本的な機能、家族と住空間の関わり、和式と洋式の住空間の特徴を理解している。（ワークシート）
2	1 本時	・モデル家族の住まいを通して、住まいの問題を見だし、安全な住まいを目指して課題を設定し、課題を解決するための計画を立てる。	思①	○	・家族の立場に立って家庭内事故や自然災害の被害を予測し、安全で快適な室内環境の整え方について課題を設定している。（ワークシート） （支援）幼児や高齢者などの様々な立場から課題に気付かせる。
	3	・幼児や高齢者の疑似体験を通して身体的特徴を理解し、家庭内事故の防ぎ方を工夫する。 ・自然災害による被害想定を通して、災害に備えた住空間の整え方や家族に合わせた備えの必要性について理解し、解決方法を工夫する。	知		・幼児や高齢者の身体的特徴を理解し、家庭内事故を想定した具体的な住空間の整え方について理解している。 ・自然災害による被害を想定し、家族の安全を考えた住空間の整え方を理解するとともに、家具の配置や固定、非常持ち出し品や備蓄の備えなどの住まい方について理解している。（ワークシート）
	2	<u>パフォーマンス課題</u> ・祖母の寝室を安全で快適な空間になるように適切な解決方法を工夫する。	思②	○	・高齢者の身体的な特徴や、地震対策について理解し安全で快適な住空間の整え方について解決策を構想している。（パフォーマンス評価） （支援）高齢者体験や災害時の生活をイメージさせることで具体的に考えられるようにする。
3	2	<u>生活の課題と実践</u> ・課題と実践① 課題設定・計画（実践は家庭で） ・課題と実践② 実践発表	思④ 思③ 態	○ ○ ○	・自分や我が家の住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践案を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題解決に向けて工夫している。（実践レポート） ・課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。（実践レポート、OPP シート） （支援）モデル家族の事例と比較させ、自分や我が家の課題やその解決方法を構想させ、実践可能な方法を具体的に考えられるようにする。

(4) パフォーマンス課題

私の同居の祖母はこたつのコードでつまずいて転倒し、右ひざを痛めて入院中です。退院後に祖母が安全で快適に過ごせるように、住生活の学習を生かして、下の①～④の条件を考慮した改造計画を立てて家族会議で提案したいと考えています。

- ① 祖母のひざは、手術後痛みは楽になるが、高齢なため、完全回復は難しく、今後も悪化していくことがある。退院後しばらくは、歩行の際の杖や立ち上がり動作の補助が必要。治った後も外出などの際には杖が必要。
- ② 祖母は社交的で、手芸教室に毎週出かけている。趣味は読書とパッチワークである。
- ③ 南海トラフ地震も心配なので、地震などの災害対策も行っておきたい。
- ④ 祖母の部屋には、布団又はベッド（A）、洋服ダンス（B）、エアコン（C）は最低限必要。

5 本題材と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本題材に入る前に行ったアンケートによると、「家庭分野の中で興味のある内容は何か」という質問に対し、「食生活」44%、「衣生活」13%に対し、「住生活」と答えた生徒は5%と、他の内容と比較しても最も低い結果になった。また、「住まいについて自分が行っている仕事はありますか」（複数回答）という質問に対し、「自分の部屋の掃除」と答えた生徒は95%と高いものの家族共有する場所についてはいずれも45%より低くなっており、生徒が住生活について家族

のために自ら考えたり整えたりすることはあまりないことが分かる。そのため、住まいについて課題を見付けたり、家族のために問題を解決したりしていこうという意識も低いというのが現状である。また、家庭内事故に対して対策を工夫することは、成長期で体力もある中学生にとって、必要感が乏しい。このようなことから、生徒に実感を持って住生活の課題を意識させ、自分事としてよりよい課題解決を工夫しようとする力を育てていきたい。

(2) 題材について

住まいは、幼児や高齢者などの様々な年齢で構成される家族が共に暮らす場所であり、それぞれの家族が安全で快適な生活を送れるようにすることが必要である。高齢化が進む日本では、家庭内事故死の発生件数が多く、交通事故死を超えているという実態がある。また、大地震やゲリラ豪雨といった自然災害の増加に伴い、住まいの災害対策への関心は高まっている。このようなことから、自分の家族の安全を考えた室内環境の整え方や災害への備えを検討し、自分の力で住生活を工夫する実践力を身に付けさせることが必要である。本題材では、住まいから課題を見いだし、安全で快適な生活を送るために工夫し、実践する力を付けることが大切である。

(3) 指導について

家庭分野において、生徒自らが生活に関心を持ち、生活する上で直面する様々な課題の解決に向けて、知識及び技能を活用して解決方法を考えたり、自分なりの新しい方法を創造したりするなど、学んだことを実際の生活の中で生かすことができる実践力を養うことが重要であるとする。しかし、生徒にとっては現在の生活が当たり前であって、課題意識を持つ機会は少ない。そのため、自ら課題意識を持って実践する力を実現するために以下のような指導の工夫を行う。

ア 学びを生活につなぐ学習過程と評価の工夫

学習題材の初めに、住まいについてイメージマップを作成したり、住まいの役割について考えさせたりする。そのことから自分の住まいやそこでの活動を振り返らせたり、自分の生活の問題に気付かせたりしながら、課題を立てていく。課題解決に必要な知識・技能の習得の場面〔生徒を育てる段階〕、問題解決的な学習（工夫・活用）の場面〔生徒が育つ段階〕、自己の課題発見と解決に向けて実践計画を立てる場面〔生徒が伸びる段階〕を設定し、学んだ知識や技能が有効に取り入れられるように学習過程を工夫する。また、問題解決的な学習の場面では、班ごとに課題を立て、その解決に向けての計画や調査を工夫させる。その際、高齢者体験などの体験活動や防災に向けての簡易実験などを通して、実感を持った理解につなげたい。

また、OPP シートを活用して自分の取組を振り返らせることで、課題解決に向けての手立てとする。さらに、OPP シートを通して主体的な学びの成長を見取るとともに、生徒自らが題材を通した変容や成長に気付けるようにする。

イ 他者、自然、地域・社会との共生を目指した状況(場面)設定の工夫

題材を通して共通のモデル家族とその住まいを設定し、題材を展開していく。モデル家族の中学生や高齢者、幼児などの視点に立たせて、その家族の住まいについて課題解決的な学習やパフォーマンス課題に取り組ませる。様々な視点に立って課題解決に取り組むことによって、単なる知識・技能の活用だけでなく、他者、自然、地域・社会との共生に向けた解決方法を導き、深い学びになるようにする。

学習の最後に、「生活の課題と実践」を取り入れ、自分の家族の住まいの課題解決に向けて実践方法を計画・検討させ、家庭での実践につなげる。モデル家族を通して得た学びを、自分の住まいにそれを活用し、課題解決に向けた計画を立て、実践させる。その際には、「健康・快適・安全」の見方・考え方に、「協力・協働」の見方・考え方も加え、家族と協働で取り組む機会とさせたい。

6 本時の指導（3／10 時間）

(1) 主題 安全な住まいを目指して、住まいの課題を設定し、計画を立てよう。

(2) ねらい

○家族の立場に立って家庭内事故や自然災害の被害を予測し、安全な室内環境の整え方について課題を設定し、解決に向けた計画を立てることができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準 (評価方法)
1 前時までの学習を確認し、本時の学習につなげる。(一斉)	5	○「安全・快適」にするために、どのようなことを考える必要があるだろう。 快適：家族の生活スタイルに合っている。 家族が過ごしやすい空間である。 安全：事故が起こらない。 高齢者や幼児にとって安全である。 災害時に命や生活を守ってくれる。	○よりよい課題解決にするために、見方・考え方に着目して意見を述べさせる。
安全な住まいを目指して、住まいの課題を設定し、計画を立てよう。			
2 課題解決のための見通しを持つ。 (個人) ↓ (小集団) ↓ (全体)	20 (3) (7) (10)	○A～Dの住まいをよりよくするにはどうしたらいいだろう。 ・ものを片付けて、つまづかないようにする。 ・浴室や階段に手すりを付ける。 ・たこ足配線をやめる。 ・地震でたんすや本棚が倒れないようにする。 ○問題をグループ分けしてみよう。 ① 家庭内事故(高齢者・幼児) ② 自然災害(地震) ③ その他の災害	○様々な立場で課題解決するために、4件のモデル家族とその住まいを準備する。 A：3世代家族 B：単身者 C：高齢者夫婦 D：夫婦と幼児 ○問題をグルーピングさせることで、家庭内事故と災害についての対策が必要なことに気付かせる。
3 課題を設定し、解決に向けて計画を立てる。(個人)	10	○住まいをよりよくするための課題を設定し、解決に向けて計画を立てよう。 (課題)幼児が安全に過ごせる住まいにしよう。 (仮説)幼児の目線で事故を予防したり、幼児が片付けやすく工夫したりすることで、安全に遊べる住まいになるだろう。 (計画)幼児に起こりやすい家庭内事故を調べる。幼児が片付けしやすくなる方法を調べる。 (課題)巨大地震が起こっても安全な住まいづくり。 (仮説)災害に備えて家具を固定したり、備蓄をしたりすることで巨大地震が起きても安心だろう。 (計画)地震により被害や家具の固定方法について調べる。災害時に備えておくといいものはなにか。 (課題)火災のリスクゼロの住まい作り (仮説)火災のリスクを無くすことで、家族の命も財産も守ることができるだろう。 (計画)火災の主な原因を調べる。たこ足配線のリスクを調べる。	○主体的に課題解決に迫れるように、各自に課題を考えさせる。 ◎家族の立場に立って家庭内事故や自然災害の被害を予測し、安全で快適な室内環境の整え方について課題を設定し、計画している。 (ワークシート)
4 計画の見直しをする。(小集団)	10	○計画を共有し合い、①②③の視点から見直そう。 ・整理・整頓は当たり前だけど、整理・整頓をしやすくするための方法はあるのか。 ・家族の成長に合わせ、住み続けられる工夫が必要。 ・バリアフリーにすることを意識すると安全になる。 ・防災は、どんな家庭でも備えておく必要がある。	○共通する問題や解決方法に気付かせたり、計画の見直しの必要性に気付かせたりするために、班で課題や計画を共有させる。
5 本時の学習を振り返る。(全体)	5	○本時の学習を振り返り、次の時間の課題を考えよう。	○学習の見通しをもたせるために、OPPシートに振り返りと次時の課題を記入させる。

7 研究の視点

○モデル家族の住まいの問題解決に向けて、自分事として課題を解決させる活動は、生徒がエージェンシーを発揮したり、メタ認知を促したりするのに有効であったか。